

考古学史Ⅰ

科目ナンバリング ARC-211

選択 2単位

榎原 功一

1. 授業の概要(ねらい)

主に日本考古学の学史を学ぶ講義であり、学史や研究史を通して考古学の方向性を探る。日本考古学は、明治初期のモースによる大森貝塚の発掘調査が幕開けとされるが、その後、さまざまな画期を経て今日に至る。これまで、どのような課題や仮説のもと、どのような研究過程、議論が行われ、どのような結論、考古学理論が得られたのか、という学史を学ぶことは、これからの考古学を志す学生にとって最も重要で、基本的な学びといえる。したがって、本講義では前半で近世以前から現代に至る考古学史を俯瞰し、後半では旧石器時代から中近世までの時代別での諸問題、諸議論、論争、学説について学ぶこととする。

2. 授業の到達目標

学史を学ぶことで、今日の日本考古学の歩みと現状を学び、今後の課題、展望、方法論について思考する。この授業を通し、各自が考古学研究の何について、どのように取り組んでいくのかを考えるうえで、関心をもつテーマを見だし、研究テーマを明確にし、研究のための指針を学び、方法論を獲得することが望ましい。また論文作成においては、まず学史を正しくおさえることが肝要とされるが、学史の深い理解の中にこそ、さまざまな課題を見いだすことができる。

3. 成績評価の方法および基準

授業で取り上げた主な重要遺跡、遺物の発見、調査、研究者、論争、考古学理論に関する記述試験(80%)、レポート、授業態度を評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

教科書は指定しないが、授業時に取り上げた文献に必要なあれば目を通す。必読すべきものはコピーを事前配布する。

参考文献

大塚初重・戸沢充則・佐原真編 『日本考古学を学ぶ』(1)～(3) 有斐閣
桜井清彦・坂詰秀一編 『論争・学説 日本の考古学』1～6・別巻 雄山閣
近藤義郎他 編 『岩波講座 日本考古学』1～7・別巻 岩波書店

5. 準備学修の内容

各回の授業時に基本事項や基本文献を羅列する。論争や論点などの学史を結果論として理解するだけでなく、当時の論文や報告を解題することで、その時代背景、情報量が限られた中での研究過程を知るとともに、自分自身の課題として考察すること。

6. その他履修上の注意事項

春季実施の本授業は、秋期実施の「考古学史Ⅱ」とセットをなすものであり、考古学史Ⅱではさらに個別テーマごとに深く掘り下げて学ぶ場となっているので、合わせて受講されたい。

7. 授業内容

- 【第1回】 講義の概要説明。世界の考古学史とわが国での近世以前の考古学史について学ぶ。
- 【第2回】 大森貝塚以降の明治期の考古学史について学ぶ。(オンライン)
- 【第3回】 大正から戦前における考古学史について学ぶ。
- 【第4回】 戦後の大転換期から昭和40年代の考古学史について学ぶ。
- 【第5回】 昭和50年代以降の大規模開発時代における考古学史について学ぶ。
- 【第6回】 平成以降、今日までの現代における考古学史について学ぶ。
- 【第7回】 時代別考古学史-旧石器時代。学史、論争、ねつ造問題のほか、日本人はどこからきたか、その研究史と研究方法などについて学ぶ。
- 【第8回】 時代別考古学史-縄文時代1(草創期・早期)。縄文時代の開始時期に関する議論、年代論、最古の縄文土器、土器の起源論、土器編年論などの研究史について学ぶ。
- 【第9回】 時代別考古学史-縄文時代2(前期・中期)。土器型式論、年代論、環状集落論、竪穴住居の構造論、縄文農耕論、大型住居の機能論、土偶の出現と変遷に関する研究史について学ぶ。
- 【第10回】 時代別考古学史-縄文時代3(後期・晩期)。中期末の寒冷化現象と集落地や構造、住居形態の変化について、環状列石、石棺墓、大型祭祀遺構の出現に関する研究史について学ぶ。
- 【第11回】 時代別考古学史-弥生時代。弥生時代の開始時期、弥生人の起源、稲作の開始と伝播、各種植物栽培に関する研究史について学ぶ。
- 【第12回】 時代別考古学史-古墳時代。古墳時代の始まり、前方後円墳の起源と分布論、国家の形成に関する諸議論、古墳時代の実年代、三角縁神獣鏡の製作地と配布に関する研究史を学ぶ。
- 【第13回】 時代別考古学史-古代。国府、国衙研究、土師器・須恵器年代論等に関する研究史を学ぶ。
- 【第14回】 時代別考古学史-中近世。土師質土器の用途論、地下式坑の時期と機能、竪穴住居の消滅と中世建築への変遷、礎石建ち建物の出現、山城の変遷論等に関する研究史を学ぶ。
- 【第15回】 まとめと授業内試験。